

優秀賞

わたしと生命保険

長野県 信州大学教育学部附属長野中学校 二学年

宮澤 広大

夏休み、朝早くから聞き覚えのある音楽が聞こえる。近所のお寺の境内で行われている、ラジオ体操だ。

ラジオ体操のルーツを辿ると、生命保険につながる。私が最初にその話を知って驚いたのは、“体操”と“生命保険”が一見何の関係もない、意外な組み合わせだったからだ。

ラジオ体操といえば、誰もが知っている国民的な体操だ。学校や職場など、全国津々浦々で行われている。私も小学生の頃の夏休みには、毎日朝早く近所のお寺の境内に通ったものだ。

現在のラジオ体操は一九五一年五月、今から六十五年も前にNHKのラジオで放送が開始された。私の父や母が生まれる遙か昔の話だ。世界初のラジオ体操は、それからさらに二十六年前の一九二五年に行われている。場所はアメリカ合衆国。主催はメトロポリタン生命だ。その目的は“国民の体力向上と健康の保持や増進”。保険加入者がより健康になれば、病気や死亡による保険の請求も減って、生命保険という制度をより健全に運営することができるということである。ラジオ体操は、生命保険会社によって、健康と幸福を追求するという高い理想に基づいて始められたものだった。自分とはかけ離れた存在だと思っていた生命保険が、身近に感じられた。

“健康”と“生命保険”と聞いて、父がよく母に健康のことで注意されていることを思い出した。健康診断でメタボを指摘されたにもかかわらず、一向に改善の努力をしないからだ。健康を損なってしまえば、いずれ生命保険のお世話になってしまう。私は、父の体のことが少し心配になった。私たち家族は父に万が一のことがあったとき、果たして大丈夫なのだろうか。

生命保険というと、お金が絡んだ話しづらい話題だと思う。それは大切な家族の“死”について考えることであり、これまでもあまり話題にすることはなかった。でも、“死”は誰もが避けることのできない、いつかは直面する問題だ。話しづらい話題だが、思い切った母に聞いてみることにした。

母は私の質問に対し、きちんと保険に入っていることを教えてくれた。父に万が一のことがあっても、私が将来進学するのに困らないよう考え、加入してくれていたそうだ。両親は私のためにコツコツと保険料を払い続けてくれていたのだ。両親の愛情を感じた瞬間だった。

第54回中学生作文コンクール

母の話聞いて、生命保険はイソップ寓話『アリとキリギリス』の話に似ていると思った。両親は、いずれ訪れるであろう、人生の「冬」に備え、アリのようにコツコツと保険料を払い続けてくれていた。キリギリスのように怠け者の私でも、同じことができるのだろうか。

そんな私も、将来進学して社会人となったその後は、自分の人生のことを自分で考えなくてはならない。自分の夢を見つけ、その実現のためにやるべきことを考え、その途中に待ち受けるリスクを見極めなくてはならない。そして、万が一リスクが発生しても夢への道が絶たれることがないように、ふさわしい保険に加入しなくてはならない。

未来のために生命保険に入るのは、未来を想像し、人生を設計することだ。私も将来、人生を設計し、万が一に備えることができる大人になりたい。